

## ニンジン (セリ科)

春は早播きするとトウ立ちする。夏は早播きすると裂根しやすく、遅播きは根が肥大しない。適期播種が大切。

		月											
作型		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春	まき				○	—	—	—	—	—	—	—	—
夏	まき	—	—						○	—	—	—	—

### 1) 適地

生育適温は18~21℃とされていますが、高温になると根形が悪くなり、根の着色には16~21℃が最もよいといわれています。土に対する適応性は広いのですが、長根種は作土の深い軽い土で作ります。一般的に適度な湿度と排水のよいことが必要です。

### 2) 品種

西洋ニンジンはカロテンが多いですが、金時ニンジンの赤はリコピンが主です。近年はカロテンとリコピンの両方を多く含む品種も育成されています。

春播き：いなり五寸、春時金港五寸、向陽二号、ベーター312

夏播き：向陽二号、ベーターリッチ、ベーター312、黒田五寸、京くれない、金時人参（東洋系）



金時人参

### 3) 作り方

【圃場の準備】施肥は基肥主体で初期に肥料を効かせます。堆肥を1m<sup>2</sup>当たり2kgと苦土石灰100g、ようりん40gを施しよく耕します。播種の1週間前に高度化成肥料120gを施し、幅140cmの畝を立てます。畝は高畝とし、播き溝は、深さ1~2cm程度とし、条間20cmの4条播きにします。

【播種】まず、播き溝に十分灌水します。種が隠れる程度に薄く土をかけ播き溝の上に切りワラを敷きます。金時人参の種子に毛がついている場合は、よく乾かして手でもんで毛を落としてから播きます。播種機を利用する場合はコート種子を使用します。あらかじめ5cm程度の株間になるように設定して播種することで、後の間引きを省略できます。



圃場の畝立てと機械播種

【播種後の管理】播種後も畝の表面が乾かないよう、子葉が展開するまでは必ず朝夕灌水します。また、本葉3～4枚くらいまでは畝をあまり乾燥させないように適宜灌水するのがポイントです。大きな面積で栽培する場合には、散水チューブを使用すると大幅に省力化できます。

【除草剤の散布】播種後の灌水を終えたら、土壌処理除草剤を圃場全面に散布し、初期の雑草を抑えます。また、本葉3～5枚程度に生育した段階で、ニンジン以外の広葉雑草とイネ科雑草に効果のある除草剤を散布します。

【間引き】1回目は本葉2～3枚の時2cm間隔に、小さすぎるものや大きすぎるものを間引きします。2回目は本葉3～4枚で5cm程度に間引きします。

【追肥】1回目の間引き後に追肥を行います。1m<sup>2</sup>当たり高度化成肥料30gを条間に施用して軽く中耕します。追肥は1回とします。追肥の遅れは裂根につながりますので、注意してください。

【収穫】太ったものから順次収穫します。夏まきは、2月以降裂根しますので、収穫し冷蔵庫で保存します。

#### 4) 病虫害防除

ニンジンは、病虫害の少ない野菜なので、発芽と初期生育を順調に進めることができれば大きな問題はありません。アゲハ蝶の幼虫がつきやすいので、見つけ次第捕殺しましょう。



選択的除草剤散布後の圃場



肥大中のニンジン



出荷のための調製作業